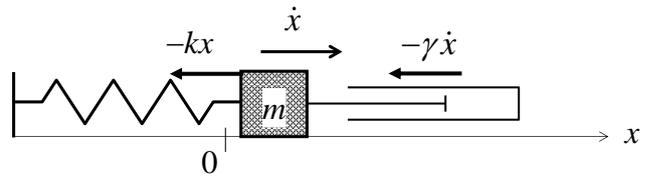


学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 得点 \_\_\_\_\_

Q1: ばね定数  $k$  のばねにつながれた質量  $m$  のおもりに、速度に比例する抵抗力が働く一次元の運動を考える。バネの自然長からの伸びを  $x$ 、粘性抵抗力を  $-\gamma\dot{x}$  ( $\gamma$  は正の比例定数) とする。



以降の計算を容易にするため、 $2\kappa = \gamma/m$ ,

$\omega_0^2 = k/m$  の置き換えを行う。以降は、 $\kappa, \omega_0$  を使い解答すること。

(1) 特性方程式を立て、その根を求めよ(10).

特性方程式は  $\lambda^2 + 2\kappa\lambda + \omega_0^2 = 0$  で、根の公式を使い  $\lambda = -\kappa \pm \sqrt{\kappa^2 - \omega_0^2}$  .

(2)  $\omega_0^2 = \frac{3}{4}\kappa^2$  の場合の運動方程式の一般解を求めよ。任意定数を  $C_1, C_2$  とする(10).

$\lambda_1 = -\frac{\kappa}{2}, \lambda_2 = -\frac{3\kappa}{2}$  だから、 $x(t) = C_1 e^{-\kappa t/2} + C_2 e^{-3\kappa t/2}$  .

(3)  $\kappa^2 - \omega_0^2 < 0$  の場合、特性方程式の根は2つの共役複素数となる。いま、 $\sqrt{\omega_0^2 - \kappa^2}$  を  $\omega$  と置く。

運動方程式の一般解を、三角関数を使って表わせ。任意定数を  $A, B$  とする(10).

$$x(t) = C_1 e^{-\kappa t + i\omega t} + C_2 e^{-\kappa t - i\omega t} = e^{-\kappa t} \{C_1 e^{i\omega t} + C_2 e^{-i\omega t}\}$$

$$x(t) = e^{-\kappa t} \{(C_1 + C_2)\cos(\omega t) + i(C_1 - C_2)\sin(\omega t)\}$$

ここで、 $(C_1 + C_2) = A, i(C_1 - C_2) = B$  と置けば、

$$x(t) = e^{-\kappa t} \{A\cos(\omega t) + B\sin(\omega t)\}$$

(4) いま、 $\omega_0 \gg \kappa$  の場合を考える。初期条件を  $t = 0$  で  $x = X_0, \dot{x} = 0$  とする。運動が  $x = X_0 e^{-\kappa t} \cos(\omega_0 t)$  と近似されることを示しなさい(10).

$\omega_0 \gg \kappa$  の条件から、 $\sqrt{\omega_0^2 - \kappa^2} \sim \omega_0$  で、運動方程式の一般解は

$x(t) = e^{-\kappa t} \{A\cos(\omega_0 t) + B\sin(\omega_0 t)\}$  となる。一回微分して

$\dot{x}(t) = -\kappa e^{-\kappa t} \{A\cos(\omega_0 t) + B\sin(\omega_0 t)\} + \omega_0 e^{-\kappa t} \{-A\sin(\omega_0 t) + B\cos(\omega_0 t)\}$  となる。

時刻ゼロの条件を代入すれば、 $A = X_0, B = X_0 \frac{\kappa}{\omega_0}$  を得る。ここで、 $\omega_0 \gg \kappa$  だから、 $B \sim 0$

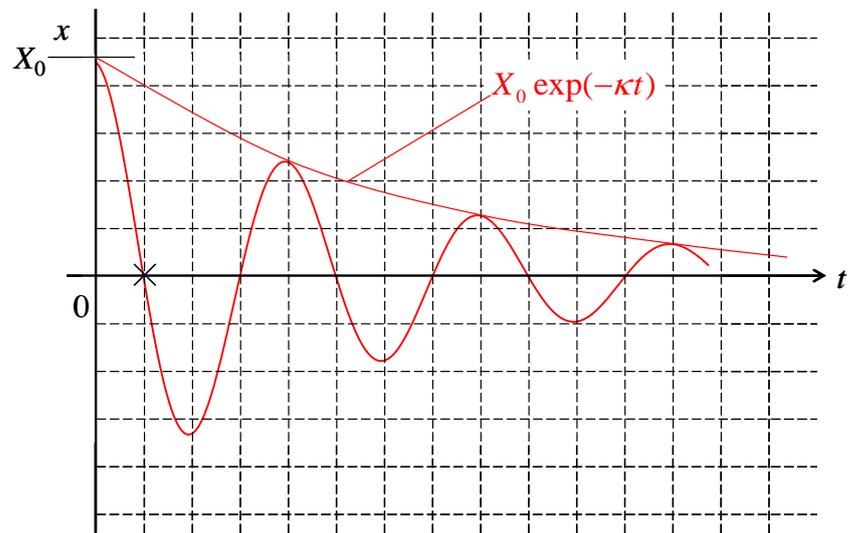
と置いて、 $x = X_0 e^{-\kappa t} \cos(\omega_0 t)$  を得る。

- (5) (4)の条件の下で、運動のおよその形が分かるグラフを右に描きなさい  $t$  軸上、 $\times$ 点を通るように描くこと。(10).

およそ右図のとおり。正解のポイントは

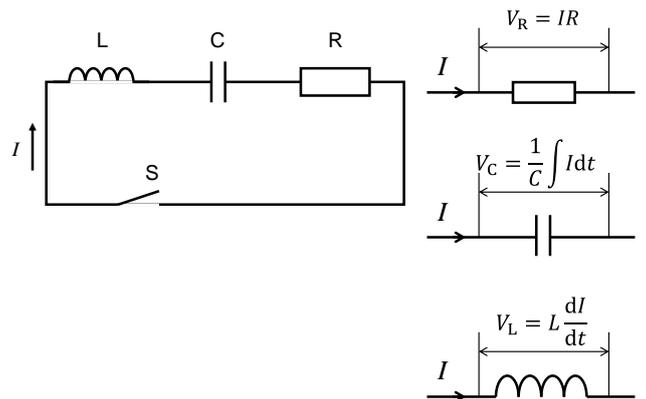
- (1)  $t=0$  で  $x=X_0$
- (2) 減衰振動であること
- (3) 周期が一定であること

部分点は5点.



Q2: 図のような LCR 直列回路がある.

- (1) 回路に流れる電流  $I$  を従属変数として、微分方程式を立てなさい(10).



$$L \frac{dI}{dt} + IR + \frac{1}{C} \int Idt = 0 \text{ 微分して,}$$

$$L \frac{d^2 I}{dt^2} + R \frac{dI}{dt} + \frac{I}{C} = 0$$

- (2) 解が振動解になる条件を “ $C < \dots$ ”の形の不等式で示しなさい(10).

$$\frac{d^2 I}{dt^2} + \frac{R}{L} \frac{dI}{dt} + \frac{I}{LC} = 0. \quad 2\kappa = \frac{R}{L}, \quad \omega_0^2 = \frac{1}{LC} \text{ の置き換えを行う. 解が振動解になる条件は } \omega_0^2 > \kappa^2$$

$$\text{だから, 回路素子に直すと } \frac{1}{LC} > \frac{R^2}{4L^2}. \quad L \text{ が両辺にあるので除して, } C < \frac{4L}{R^2}.$$

- (3) 回路定数を振動解になるよう選ぶ. コンデンサーに電荷を与え, 時刻ゼロでスイッチを閉じると電流は減衰振動する. 電流の減衰定数と角振動数をそれぞれ求めよ(10).

$$\text{減衰定数は } \kappa = R/(2L). \quad \text{角振動数は } \sqrt{\omega_0^2 - \kappa^2} = \sqrt{\frac{1}{LC} - \frac{R^2}{4L^2}}.$$

- (4) この回路は Q1 のばねとおもりの系のシミュレーターとして使える.  $L, C, R$  に相当するのは Q1 の図のそれぞれ何に相当するか答えよ(10).

$$\kappa, \omega_0^2 \text{ をそれぞれ何で置き換えたかを比較. } L = m, \quad R = \gamma, \quad k = 1/C.$$

- (5) 回路定数を臨界減衰になるよう選ぶ. 時刻ゼロの電流をゼロ, 電流の変化率を  $\alpha$  とするとき, その後回路に流れる電流を答えよ. 減衰定数  $\kappa$  を使い答えること(10).

$$I = (C_1 + C_2 t)e^{-\kappa t}. \quad t = 0 \text{ で } I = 0 \text{ から } C_1 = 0. \quad \dot{I} = C_2(e^{-\kappa t} - \kappa t e^{-\kappa t}). \quad t = 0 \text{ で } \dot{I} = \alpha \text{ から } C_2 = \alpha. \quad \text{答: } I = \alpha t e^{-\kappa t}.$$